

平成 27 年 6 月吉日

会 員 各 位

(公社) 高知県理学療法士協会
会 長 山本 双一
第 29 回高知県理学療法学会
学 会 長 市村 瑞也
準備委員長 池上 司

第 29 回高知県理学療法学会のご案内

拝啓 会員の皆様におかれましては、時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび下記のとおり第 29 回高知県理学療法学会を開催する運びとなりました。お忙しい時期ではございますが、多くの皆様にご参加戴きますようご案内申し上げます。

敬具

【 趣 意 】

理学療法士が誕生してから 50 年、いまや日本理学療法士協会員だけでも 10 万人となり、さらに毎年 1 万人以上の理学療法士が新たに誕生する時代となりました。理学療法士が人数的に充足することは、患者やその対象者あるいは利用者にとっては理学療法サービスを受けられる機会が増え、健康と福祉の保持向上にとって望ましいことではあります。しかし急速にそして将来は過剰になると思われる現況の理学療法士数増加率は、私たち理学療法士としては今後を危惧する要素も持ち合わせます。ましてや、2025 年以降は高齢者も減少し、少子化のため社会全体の縮小が予測されています。

高知県では、すでに県民人口 500 人に一人が理学療法士となりました。さらに医療における病床数の減少が政府から提言されました。この現況と将来を鑑みるに、理学療法士の供給が需要を上回り、雇用の門戸は縮小され、雇用条件も変化していくことが予想されます。求人数の減少、診療報酬改定に伴う給与面への影響、雇用形態の変化、など理学療法士業界にとってはプラスとは言い難い事象はすでに始まっていますが、これらはますます加速されることになるでしょう。理学療法士誕生からの 50 年をターニングポイントとして、理学療法士という職種が希望に満ち溢れたものから、不安要素も抱えているという認識をもたなければならないという大きな意識転換が迫られています。いま職域の拡大が大きな課題となっていますが、今後予想される苦境を乗りこえるためには、医療においては理学療法の質を担保する以上に向上を目指し、品位と技量を磨き、患者・対象者・利用者に満足される理学療法サービスの充実を図ることも必要です。まさにこれが「臨床力を磨く」ということであり、理学療法士としていまあらためて取り組むべきことだと考えています。

本学会は、平成 28 年 3 月 13 日、夜須マリンホールで開催予定です。皆様の演題発表並びにご参加をお待ち申し上げます。また、特別講演は山崎病院の本久博一会員、教育セミナーは道後温泉病院理学療法士の島原範芳氏を予定しております。

本学会が、会員の皆様の自己研鑽の一助となるとともに、理学療法の未来を切り開く第一歩となることを願っております。

【開催要項】

- 期 日 : 平成 28 年 3 月 13 日 (日)
- 会 場 : 夜須町中央公民館 マリンホール
(〒781-5601 高知県香南市夜須町坪井 219)
- 学会テーマ : 「臨床力を磨く」
- 特別講演 : 講師 本久 博一 先生 (山崎病院)
- 教育セミナー : 講師 島原 範芳 先生 (道後温泉病院)
- 発表演題 : 一般演題 (20 題) (予定)